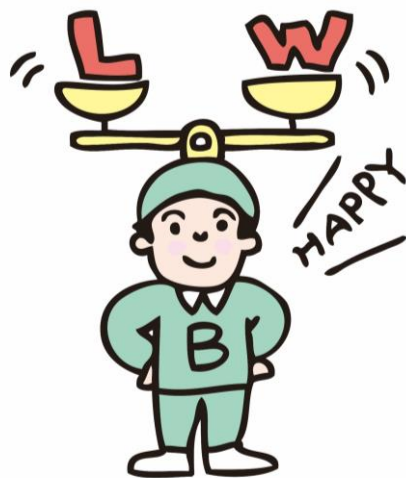


令和3年度市民協働事業提案制度

父親の家事・育児参加推進事業



特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク

特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク

＜理念＞子ども家庭、特に母親を取り巻く環境に焦点を当て、子育てしやすい街づくりを目指す。

＜これまでの取り組み＞

○指定管理施設運営(子育て支援施設)

平成16年1月～ 仙台市子育てふれあいプラザ

平成29年10月～ 仙台市子育てふれあいプラザ若林

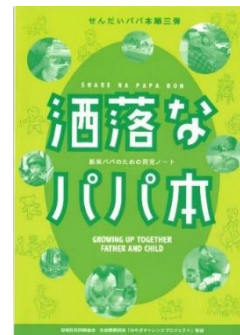
事業内容:主に乳幼児親子が自由に集えるひろば、一時預かり、子育て情報
収集提供、相談

○子育て支援のネットワークの構築や支援者向け講座の開催

○企業等への派遣託児

○子育て支援のイベントや講座の開催

○冊子の発行



1) 事業の目的・内容

目 的: 男性の育児休業の取得率の向上と、父親が家事・育児に参加しやすい社会環境の整備

事業内容:

○ プログラムの構築

先輩パパや専門家にも意見を仰ぎながら、プログラムを作成。講座を開催する企業、講座にご協力いただいた企業、仙台市男女共同参画課とも打ち合わせを重ね、ブラッシュアップを図った。

○ 連続講座の開催


仙台市内の企業3社に連続講座「パパ力UP講座」を開催。企業との打ち合わせを重ね、3回講座の内容を2回で開催するなど状況に応じた対応を行った。

○ 啓発冊子の作成

父親の家事・育児に対する理解を当事者だけでなく、企業全体の意識改革のきっかけになる冊子の作成を行い、啓発活動に役立てた。

仙台市担当課: 仙台市市民局市民活躍推進部男女共同参画課

2) 仙台市における子育て世代の現状

- 共働き家庭の割合 約5割
- 男性の育児休業取得率 3.3%(全国平均6.6%) ※平成30年度
- 固定的性別役割分担意識が根強い  令和3年度13.97%
「育児休業を利用しにくい職場の雰囲気がある」と感じる男性も多い
- 家事・育児の時間 男性 1時間9分
女性 4時間4分

出典:仙台市「子ども・子育てに関するアンケート調査」(平成30年度)

男性の家事等への参画促進のために必要なこととして

1. 男性が家事などに参加することについて、男性自身の抵抗感をなくすこと
 2. 労働時間短縮や休業制度の充実を進めること
- を挙げる男性が多かった。

出典:仙台市「男女共同参画社会に関する市民意識調査」(令和元年度)

3) 事業の経過報告

項目	時期
プログラムの構築	4～12月 ※参加企業に合わせ調整を重ねた
連続講座 「パパカUP 講座」 3社で実施	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>A社 参加者：37名</p> <p>7/26・9/27・10/11</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>B社 参加者：32名</p> <p>11/9・11/29</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>C社 参加者：19名</p> <p>1/19・1/26・2/9</p> </div> </div> <p>※参加者は延べ人数</p>
啓発冊子発行 「パパカUP H A P P Yワーク・ラ イフ・バランスの すすめ」 啓発冊子発行記念 イベントの開催	<div style="text-align: right;"> <p>冊子編集作業</p> <p>12～2月</p> <p>参加者：8名</p> <p>3/12イベント</p> </div>

担当課・開催企業等打ち合わせ回数 27回

4-1) 連続講座「パパカUP講座 ～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～」

プログラム内容

1回目

- 仙台市における子育て世代の現状
- 講話「父親の家事・育児参加 立命館大学 筒井淳也氏
- 企業の取り組みと子育てパパの体験談 I K E A 仙台

2・3回目

- ワークショップと交流
 - ・ 家事・育児タスク表
 - ・ NGワード
 - ・ 自分ができること
 - ・ 社会にあったらいいなと思う仕組みや制度



4-2) 連続講座「パパカUP講座 ～ワーク・ライフ・バランスのすすめ～」

企業担当者の声から

父親の育児等への参加を促進するとともに、職場内の理解を広めることにより、育児等と仕事を両立できる職場環境を「推進していくことを目的に開催しました。

こういった講座を社内で開催できたということは、会社が子育てをする社員を理解し、応援するという意味でもとても有意義な活動であったと思います。講座の内容を活かしながら、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて今後も取り組んでいきたいと思いました。

参加者の声から

毎回セミナーを終えたその日の夜は、娘が寝た後に、妻にセミナーで学んだことや感化されたことについてアウトプットさせてもらってました。

こういう機会がないとなかなか自分から学びたいと思いきにくいので、ありがたかったです。

日本の家事・育児の現状を知ることが出来ました。友人や家族に学んだことを伝えていきたいと思っています。

5) 啓発冊子の発行

「パパカUP! HAPPYワーク・ライフ・バランスのすすめ」

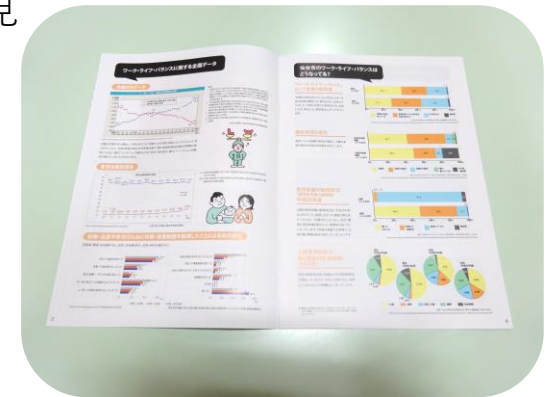
発行部数：8000部



(発行：令和4年3月)

目次

- ワーク・ライフ・バランスに関する全国データ
- ワーク・ライフ・バランスに関する仙台市のデータ
- 育児休業制度を活用しよう！
- 出産・育児にかかるお金の話
- 3つの心構えと10の実践
- パパカUP講座
- 家族のタイムマネジメント
- ライフイベント／私・家族の「未来」発見
- 魔法のシート体験記
- やってほしい家事育児／おとう飯
- 子育てしながら働くためのヒント
- 子育てに役立つ情報サイト



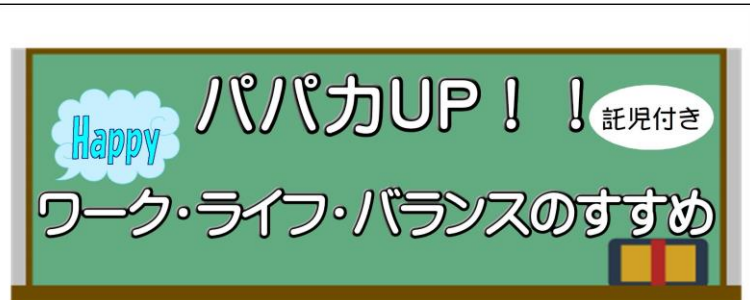
仙台市内の公共施設、企業、行政機関等に配布

配布部数：3000部（R3年度末現在）

6) 啓発冊子発行記念イベント 「パパカUP! HAPPYワーク・ライフ・バランスのすすめ」

内容：

- ① 専門家による講話（ビデオ上映）
- ② パネルディスカッション
「あなたが考える子育てしやすい環境は？」
「ワーク・ライフ・バランスの実現に必要なキーワードは？」



3月12日(土)
10:00~11:30
エル・ソーラ仙台 大研修室
(AER28階)

※ 新型コロナウイルスの感染状況によって
オンライン開催に切り替える可能性があります。

対象 テーマに関心のある方ならどなたでも
定員 30名
託児 生後6か月～小学2年生まで(無料)
申込先 電話またはFax、E-mailにてお名前・
電話番号、託児の利用について
お知らせください。
特定非営利活動法人
せんだいファミリーサポート・ネットワーク
Tel&Fax:022-714-2088
(平日9:00~18:00)
E-mail:sefami@rhythm.ocn.ne.jp

子育てと家事を楽しむパパを応援
したい！
仕事と家事・育児の両立は子育て家
庭にとって、永遠のテーマ？
企業とタッグを組んで、子育てしや
すい環境について話し合います。

- ビデオ講話「父親の家事・育児参加」
筒井 淳也氏 (立命館大学産業社会学部 教授)
- パネルディスカッション
「企業とタッグ！子育てしやすい環境とは？」
(パネリスト)
鈴木 啓臣氏 (株式会社 藤崎)
黒田由美子氏 (ハリウッドコミュニケーションズ株式会社)
宮腰 紀子氏 (株式会社 崎空間設計)
川戸 華嘉氏 (仙台市男女共同参画課)
(ファシリテーター)
齋藤 勇介氏 (特定非営利活動法人
子育て応援団ゆづり 理事長)



- 定員 6名
- 申込締切 3月10日(木) ※先着順、定員になり次第締切
- 会場 エル・ソーラ仙台 28階 託児室
- 持ち物 ※お子さんを預けてから、大研修室においてください
お着替え一式、おむつ、ビニール袋、お子さんの水分

素敵なパパ本
W-L-B啓発冊子
プレゼント！

【主催】特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク
仙台市青葉区国分町3-8-17 日東ハイム204 Tel&Fax:022-714-2088
【協力】のびすく仙台・のびすく若林

このイベントは、仙台市民協働事業提案制度の枠組みにより、仙台市男女共同参画課と協働して実施するものです。

参加者アンケートより

- ・夫婦の家事バランス、家事そのもののマネジメント、職場・家庭内での相互理解 とても良かったです！
- ・幼いころからジェンダーの刷り込みがあったことが大きな原因だと思いましたが、今回のようにワークとライフのバランスや父親の家事、子育ての必要性を学んだり話し合ったりする場が本当になかったなと思います。
- ・筒井先生のお話は非常に共感する部分があり、大変勉強になりました。パネルディスカッションはいろいろな立場の方の意見が聞けて、非常に参考になりました。

7) まとめ

取り組みの成果

企業研修の一つとして、講座のプログラムを採用してもらうことができた。視点や切り口が新鮮だったようで、新しい気づきがあったようだ。また、終了後は、「社員の意識が変わった」「社内で話をしている様子が見られるようになった」「父親同士のつながりが深まった」などの声が聞かれた。子育て支援に携わる中で、企業へのアプローチが課題ではあったが、行政担当者の尽力もあり、開催することができた。事業の柱となった父親講座での参加者の声を活かし、冊子の発行やイベントとつなげた。

育児休業等の雇用環境の整備には、子育て中の父親だけではなく、一緒に働く人たちの理解を深めることも重要だということを経験した。

今後の取り組み

開催した父親講座のプログラムを、実践経験と長年培ってきた子育て支援の経験から更にブラッシュアップして、企業に提供していきたいと考えている。そのためには、自分たちの力で、どのように企業とつながっていくかは大きな課題だと感じている。

また、対象を当事者だけではなく、独身の人、学生などに広げることで、早い段階で子育てや家事に対しての理解者を増やす取り組みにも挑戦していきたい。

啓発冊子は、仙台市内の公共施設や企業を中心に必要と思われる場所には送付、配架のご協力も引き続き行っていく。